

放課後等の教育支援の在り方に関する資料 事例集

Ⅳ-1. 学校と放課後や土曜日等の学びがつながる仕組みづくり

杉並区立杉並第一小学校	「ふるさと杉」を意識し、学校・地域・保護者が一体となった学校支援	82
福島県大玉村	放課後子供教室、学校支援地域本部で地域の参画意識を高め、コミュニティ・スクールに指定	
奈良県奈良市	中学校区の全ての子供を大人の輪で守り育てる仕組みづくり	83

Ⅳ-2. 学校や子供たちを核とした地域づくり

東京都千代田区	千代田区の多目的利用の都心複合施設の利用	83
横浜市立東山田中学校コミュニティハウス	地域につくられた学校応援団「やまたらう本部」～社会総がかりで教育にかかわるために～	84
横浜市立東山田中学校コミュニティハウス	コミュニティカレンダー	
岩手県大槌町	「ふるさと科」の創造・新しい学校施設の計画	85
東京都杉並区	すぎなみ大人塾	

Ⅳ-3. 教育と福祉の連携促進による放課後等の支援の充実

千葉県千葉市	子どもルームの整備に係る協定書	86
東京都品川区	すまいるスクール第二延山放課後子供教室～遊びも学びも友だちといっしょ！放課後のみんなの居場所～	
特定非営利活動法人 放課後 NPO アフタースクール	「子どもたちの放課後を救え！」～放課後の学習プログラム充実に向けた民間・NPO との連携について～	87
葛飾区立葛美中学校	子供たちの学習意欲に応えるため地域住民と学校が協力した中学校夜間補充教室（がんばらナイト）を運営	
滋賀県湖南市	子供たちが主体となる土曜学習「地域の人は学校へ 生徒は地域へ」をキャッチフレーズに地域コーディネーターを中心に活動	88
愛知県名古屋市長	放課後子供教室に参加した子供たちが支援者となる「支援の循環」により、支援の輪が拡がり、社会総掛かりの教育の実現	
奈良県奈良市長	コーディネーター研修「特別支援が必要な子供たち」	89
東京都	都立あさきの学園（特別支援学校）における放課後子供教室	
大阪府柏原市長	柏原子ども教室 ☆い・ち・み☆	90

Ⅳ-4. 持続可能な仕組みとするためのコーディネーターの育成・機能強化

小平市立小平第四小学校	～コーディネーター部会の設置の事例～	90
小平市立小平第二中学校		
福島県榊栗町	地域住民の参画を NPO 職員がコーディネート「ならばキャンパス」	91
岡山県	地域連携担当教員の配置の事例	
宮城県仙台市長	学校における地域連携担当と嘱託社会教育主事制度	92
群馬県	地域コーディネーター等向け研修会（平成 25 年度実績）	
特定非営利活動法人 スクール・アドバイス・ネットワーク	地域コーディネーター等向け研修のテキスト事例	93
新潟県	地域コーディネーター等向け研修会（平成 25 年度実績）	

Ⅴ-3. 土曜日の豊かな教育環境の実現に向けた具体的方策

大分県豊後高田市長	「学びの 21 世紀塾」～「学びの姿」の構築を図る～	94
認定特定非営利活動法人おやじ日本	認定特定非営利活動法人「おやじ日本」の未来教室（出前授業の支援）	
一般社団法人 日本経済団体連合会	経団連における「教育支援」の取組	95
東京都	東京都の「地域教育推進ネットワーク東京都協議会」の機能	
大阪府大東市長	〈学力向上ゼミ〉～土曜日に児童・生徒のための学習の場を開設！学習機会の拡充を図る～	96
東京都	東京都における教育支援コーディネーター・フォーラムの事例	
特定非営利活動法人 コチカラ・ニッポン	実社会での本番体験	97
野村グループ	野村グループによる小学生向け出張授業（まなぼう教室）	
株式会社キャリアリンク	キャリア教育プログラム開発推進コンソーシアムの取組	98
文部科学省・品川区	土曜学習フェスタ	
大阪府池田市長	池田中学校区 MTP（マイタウンプロジェクト）	99
奈良県大和高田市長	大和高田市土曜塾	100

IV-1(2) 学校と放課後等の学びがつながる“横の連携”の仕組みづくり

*17

「ふるさと杉一」を意識し、学校・地域・保護者が一体となった学校支援（杉並区立杉並第一小学校）

目的

- 杉並第一小学校を支援するために設置された、地域の人たちの学校応援団
- 地域から信頼される「力のある学校」づくりの支援
- 「わが街阿佐谷、ふるさと杉一」を意識し、学校・地域・保護者が一体となって多様な学校支援活動や放課後支援活動を行う仕組みを構築
- 杉一プラン独自の発想と協力体制による教育活動の更なる充実



【オープンキャンパスの風景】



【朝先生と百人一首】

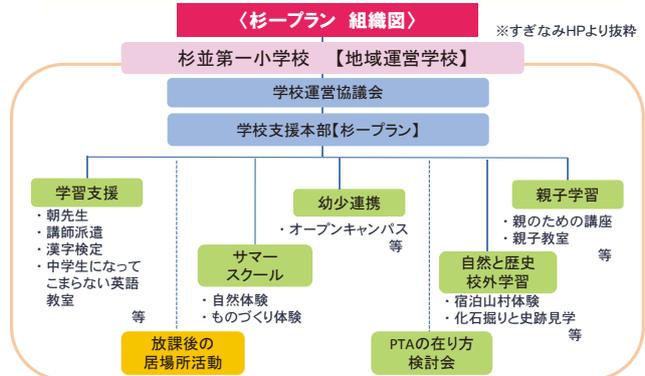
取組の成果

- 「地域」を「杉一小の子供たちのために活動している人たち」「杉一小の教育活動に興味・関心をもっている人たち」と捉え、「地域」におけるネットワークをより充実させることで、学校をサポートする「地域」を育成することができた
- 近隣の学校支援本部と人材・施設等を含めた多角的な視点から連携し、「地域とともに歩む学校づくり」を目標に掲げる学校を支援しながら、子供のための取組を今後も実践していく

取組内容(例)

- ★朝先生・・・平成19年度から続く、授業開始前の朝の時間に地域住民が全クラスの朝学習に参画し、計算チャレンジや百人一首を指導。
- ★すぎっくらぶ・・・平成16年度から続く、放課後子供教室。学校の施設を利用し、毎日17時まで実施、約200名の子供の居場所となり、日本の昔遊び、路地裏遊び等を実施。スタッフは子育て経験の豊かな地域の住民。
- ★オープンキャンパス・・・幼保小(※)のスムーズな接続を目指した、小学1年生の担任による国語や算数の授業等を実施。

※・・・幼稚園、子ども園、保育園から小学校への接続を意味する

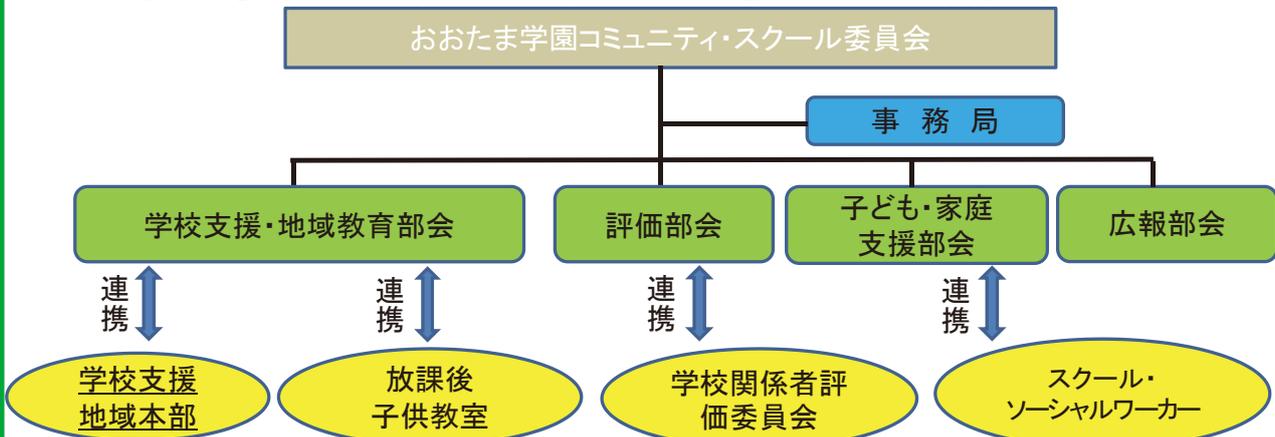


IV-1(2) 学校と放課後等の学びがつながる“横の連携”の仕組みづくり

*17

放課後子供教室、学校支援地域本部で地域の参画意識を高め、コミュニティ・スクールに指定（福島県大玉村）

- ◆コミュニティ・スクールで導入までの取組
 - ・学校評価システムの構築(学校の現状把握+情報の共有)
 - ・学校支援地域本部及び放課後子供教室の立ち上げ(保護者・地域住民の参画意識を高める)
 - ・大玉村教育ビジョンの策定(明確な教育ビジョンと共有化できる子供像の設定)
 - ・幼小中一貫教育の推進
- ⇒人の異動に左右されない学校教育や、学校教育と社会教育の連携(学社融合)を実現。



IV-1(3) 就学前と小学校、中学校など“縦の連携”が生まれる仕組みづくり

*18

中学校区の全ての子供を大人の輪で守り育てる仕組みづくり

(奈良県奈良市)

取組の概要

◆平成20年度に学校支援地域本部事業を**全市展開**し、**各中学校区(22校区)**に地域教育協議会(学校支援地域本部)を設置。平成22年度には奈良市独自の予算で「地域で決める学校予算事業」を開始。地域全体で子供を育てる体制をつくり、子供たちの教育活動の充実を図るとともに、地域の教育力の再生と地域コミュニティの活性化を進めている。

「地域で決める学校予算事業」

事業予算

総額8,000万円

(うち国補助1,100万円)

※校区の学校園教・園児児童生徒数を基礎に予算を算出

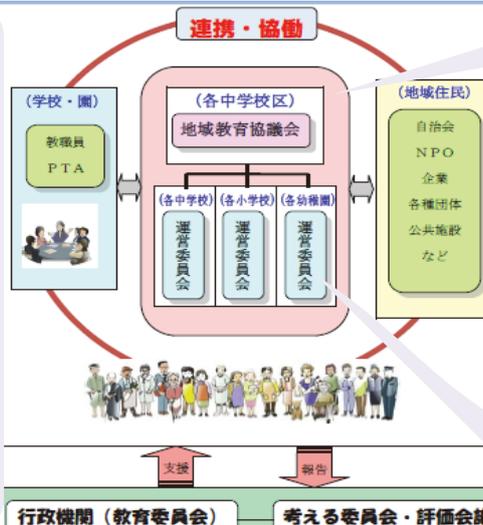
※各地域教育協議会によるプレゼンテーションによる評価を加味し、全22中学校区に予算を配当

※学校や地域の実態に応じて、使い道が決められる予算

※1校区(150万円～650万円)



事業推進の要としての
コーディネーターの育成
(年6回の研修開催)



地域教育協議会

各中学校区に設置

- ・地域既存の組織のリーダーが集まる組織となり、地域ネットワークが広がっている。地域の既存組織がお互いの思いや活動を理解する場ともなっている。
- ・幼稚園、小学校で留まっていた地域のマンパワーが中学校にも導入されるようになった。
- ・奈良市が進める小中一貫教育と連携しながら、地域に根ざした学校園づくりを進めている。校区によっては、学校と地域が育てたい子供像を共有し、学校運営協議会として組織を組み直し、学校への関わりを進めている。

運営委員会

各学校園に設置

- ・各学校園の課題解決のため、地域と協働で活動が進んでいる。
- ・小学校においては放課後子供教室の運営も担っている。

学校園の周辺から校舎内に、そして教室内に地域のマンパワーが注ぎ込まれるなど、子供たちの豊かな学びの場が広がっている。

IV-2(1) 多様な関係者がつながる学校施設の複合化・共用化

*19

千代田区の多目的利用の都心複合施設の利用

(東京都千代田区)



いずみこどもプラザ

○開館時間:月～土 9時～17時
(中学生タイム17時～19時)

○実施事業:乳幼児用プログラム
一時預かり保育
中学生タイム
学童クラブ



ちよだパークサイドプラザ(地上8階、地下1階)

いずみこども園(幼保一元施設)、和泉小学校を併設し、また和泉公園が隣接している。子供からお年寄りまでが集い、憩い、学ぶことができる、多目的利用の都心型複合施設。広々としたホールや屋上、小学校の校庭などで思いっきり体を動かしたりもできる。

この複合施設の特徴を生かし、こども園の年長組の子供たちは新年度に向けて慣らし保育で遊びにきたり、小学校でも当施設を使用し、連携をとっている。小学校の先生方と子供たちに関する情報交換なども行っている。

放課後子供教室

千代田区では全ての小学校において、授業後も小学校で勉強やスポーツ、遊びができるよう安全で健やかな活動場所を確保。

●実施日時:月曜日～金曜日(放課後～午後5時まで)※曜日・時間帯は、学校により異なる

●実施対象:放課後子供教室を実施する小学校の在籍児童

●内容:

「遊びの場」

専任指導員の見守りのもとで、児童が自主的に遊びやスポーツを楽しむ。

「学びの場」

宿題ドリル等を用い、専任指導員の支援により自学自習の習慣を身につける。

「体験の場」

希望を受け入れながら実施。(囲碁・輪車・ドッチビー・水泳等)

IV-2(1) 多様な関係者がつながる学校施設の複合化・共用化 *20

地域につくられた学校応援団「やまたらう本部」～社会総がかりで教育にかかわるために～
(横浜市立東山田中学校コミュニティハウス)

「やまたらう本部」の設立

- 平成17年度の開校と同時にコミュニティ・スクールの指定
 - ・ 学校予算の執行計画の承認など、地域住民や保護者が学校運営に参画
 - ・ 小・中学校・町内会等のスケジュールをまとめた「**コミュニティカレンダー**」の作成や、地域住民や保護者によるキャリア教育支援を通じて、学校支援の機運が醸成
- ↓
- 平成21年度に東山田中学校学校支援本部(通称「やまたらう本部」)を設置

地域と学校をむすぶために

○ **コミュニティカレンダー**(平成18年度より作成)



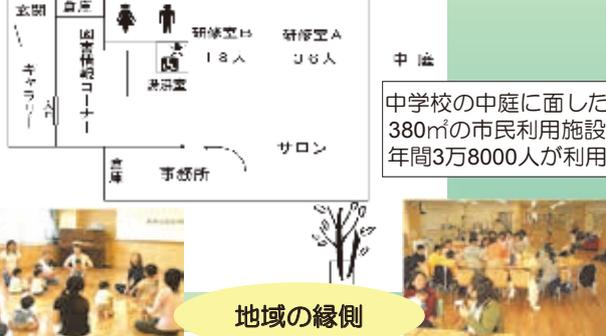
小・中学校4校と地域(町内会自治会・施設等)の情報を掲載

HP(やまたらうねっと) 現役世代のボランティアが作成

中学校内にあるコミュニティハウス

東日本大震災後、被災地の学校再建のための視察が多くなっている

- **子ども大人も一緒につどい学ぶ場**
- **地域と学校をむすぶ場(H20学校支援地域本部を設置)**
 - 併設されているコミュニティハウスは「身近な生涯学習活動の場」・「地域活動の場」・「地域と学校をむすぶ場」として子供から高齢者までが利用している。
 - 設計段階から学校と地域の連携施設として考慮され、中学校の中庭に面し、開放された廊下で中学校とつながっている。
 - 公設民営の施設として運営され、小学生中学生が地域と出会い、土曜活動やボランティアの場ともなっている。



中学校の中庭に面した380㎡の市民利用施設 年間3万8000人が利用

地域の縁側

11 平成25年(2013)

コミュニティカレンダー

★全国初のコミュニティカレンダー★
山田小、北山田小、東山田小、東山田中の他、町内会、自治会、地域の団体スケジュールが載っている

月	火	水	木	金	土	日
キャリア教育本番 中学のキャリア教育は地域の方や事業所の協力を得て行われています。1年生は多彩な職種の方の仕事や生きがいを学び、2年生は3日間の職場体験を、3年では地域の方による模擬面接をします。様々な大人との出会いが、生徒の「あこがれ」につながり10年後の社会人を育みます。				1 (中学)3年進路説明会 懇談会	2	3 文化の日 区民祭り
4 振替休日	5 (北小)避難訓練	6 (北小)全校遠足	7 (中学)3年市学力学習 状況調査①	8 (中学)3年市学力学習 状況調査②	9 (東小)こどもまつり (北町)防災訓練	10
11	12 (山小)避難訓練	13 (中学*)グリーン サポーター	14 (東小)就学児健診・7 組宿泊体験① (北小)4,5組宿泊体験 ①	15 (東小)7組宿泊体験② (北小)4,5組宿泊体験 ②	16 (山小)山田フェスティ バル・こどもランド・ イン山田	17
18 (中学)後期中間試験① (山小)代休	19 (中学)後期中間試験② (中学)個別支援級合同 宿泊学習① (北小)授業参観②低③ 中4高	20 (中学)個別支援級合同 宿泊学習② (北小)区音楽会	21 (北小)就学児健診	22 (東小)創立記念日・式	23 勤労感謝の日 つづきワーク&フェ スタ	24
25	26 (中学)職場体験① (山小)就学児健診	27 (中学)職場体験②	28 (中学)職場体験③	29	30 (北小)ふれあいまつり	

◎生徒がボランティア協力できる地域行事 ☆地域の方が参加できる学校行事 (中学*)東山田中学校・学校支援ボランティア
①…1日目 ②…2日目 ③…3日目 中学校完全下校 5時

IV-2(1) 多様な関係者がつながる学校施設の複合化・共用化

*21

「ふるさと科」の創造・新しい学校施設の計画（岩手県大槌町）

ふるさと科の取組概要

大槌町が復興を目指すに当たり、次代を背負って立つ子供たちを育て、魅力的な地域・学校づくりを推進するため、小中一貫教育の取組の一つとして「ふるさと科」を全学年に設置。

ふるさと科でねらうもの

「生きる力」

「ふるさと創生」

地域や自分の生き方を見つめ、大槌町の復興発展を担う人材を育成する。学校・保護者・地域が一体となり連携・協働して実現していく。

ふるさと科の三つの柱

「地域への愛着を育む学び」…中学校区における特色を生かした学び

「生き方・進路指導を充実させる力を育む学び」…将来の夢や希望を育む学び

「防災教育を中心とした学び」…命の大切さを見つめ、主体的に判断し行動する学び

モデル指定校

吉里吉里中学校 郷土芸能発表会(H24年度)

郷土芸能の発表

吉里吉里中学校の生徒が「神楽・鹿子踊り・虎舞」の3チームを構成し、保存会や講の方の指導の下、放課後に練習を重ねた。中学生だけで演舞や楽器を披露するのは初めて。10月17日の発表当日は200人以上の保護者や地域住民が来場。力強い踊りと演奏に会場が沸いた。地域の文化・郷土芸能を学ぶことで郷土を愛する心を育成。

調査と発表

祭りの魅力や謎を調査するため、各チームの代表者が保存会の方々に取材。地域の方が先生役。取材した内容はパソコンでまとめ生徒が発表。



伝統芸能の発表①



伝統芸能の発表②



調査と発表

- ・小中一貫教育の推進にあわせて、中学校区での特色を生かした「ふるさと科」実施
- ・発達段階に応じたカリキュラムづくり
- ・震災後、学校と地域の連携体制強化のため、コーディネーター3人体制による学校支援地域本部の立ち上げ

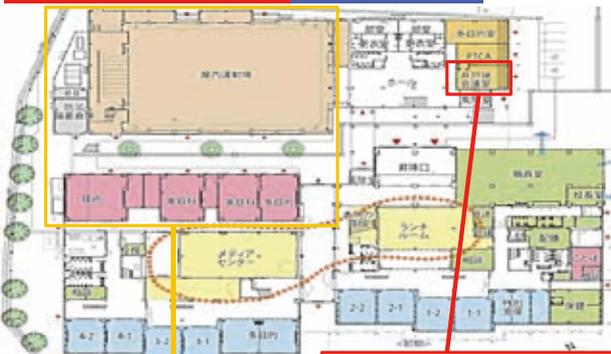
小中一貫教育校校舎の検討に当たって (平成28年度の開校予定)



～時を超えて、まちが人を育て、人がまちを育てる～
大槌に必要な学校の在り方とは、まちの人々が学びにかかり学校が交流の場となることだと考える。学びを通してまちのコミュニティが育ち、そのコミュニティ自身が子供たちの先生にもなる場を創りたいと考えた。

おおつち学園(小中一貫教育校)

校舎の完成イメージ図



学び続けるまちの人に向け、特別教室や屋内運動場を単独解放できる配置とする。

井戸端会議室を設置し、学校の入り口にまちの人がいつでも語れ、子供たちと交流ができる学校とする。

・新たな学校施設の計画に当たっては、老若男女全ての人が時代を超えて、大槌を愛し能力・個性を発揮しながら、まちを元気にする人材であり続けるよう大槌の人々にとっての「生涯の学び舎」づくり、ワークショップを通じ、地域の方々や子供たちとともにみんなが誇れるオンラインワンの学校を目指す。

IV-2(2) 子供に関わる大人の学びのコミュニティ化と地域の活性化

*23

すぎなみ 大人塾

(東京都杉並区)

事業紹介

自分の可能性に気づき、ネットワークを深め、自主ゼミを開くなど社会に発信し、みんなで新しい地域づくりをしよう！(放課後)的に自由な発想を育む学習の場です。

月曜と土曜のコースがあり、学習支援者や参加者相互のやりとり、旬なゲストの講演など、一年を通して楽しく学べます。



月曜コース(平成26年度)

『個性を活かす「みせ」びらき
～学び合いと地域交流でめがく発想力と活動力～』
プログラムの特徴

- ①人間関係づくりの基本原則を学ぶ。
- ②「寄席(よせ)」や「ピクニック」や「だがしや楽校」といった人と人をつなげる取組を実践し、体験的にコミュニティを学ぶ。
- ③趣旨を同じくする他地域の講座受講生との交流から、消費地と生産地の「かわり学習」の視点を学ぶ。
*「だがしや楽校」…自分の趣味や特技などの持ち味を、「自分みせ(店・見せ)」として披露する集いの場を開き、新たな人との出会いを通して、自分も地域も更に生き生きして活動。

土曜コース(平成26年度)

『大人のまちの楽しみ方
～自分発!『アソビノベーショ』入門～』
プログラムの特徴

- ①「遊び」を創り出すことをきっかけに、まちを元気にする「遊び+ソーシャル・イノベーション=アソビノベーショ」を提案する。
- ②30～40代を中心とする受講生を支える学習支援者の配置。
- ③「もっとまちで楽しく暮らせたら」「こんな友達ができたら」という思いを、地元杉並で実現する第一歩を応援する場。

※すぎなみ大人塾HPを基に作成

IV-3 (2) 学校や放課後子供教室と放課後児童クラブの連携強化

② 学校施設の活用の促進 *27

子どもルームの整備に係る協定書

(千葉県千葉市)

千葉市では、余裕教室を活用した子どもルームの整備に関し、教育委員会と市長が円滑に事務を進めるための協定を結んでいます。

経緯

千葉市では、学校施設の担当は教育委員会事務局で、子どもルームの担当はこども未来局であるため、学校内に設置した子どもルームの管理区分を明確にするため物理的に区画していた。

このため、校舎の1階端または別棟に整備する必要があり、余裕教室等の確保が困難であった。

また、学校のトイレを使用することができず、子どもルーム専用のトイレを建築する必要があるため、整備費が高くなっていった。

協定内容

協定(平成21年度締結)は、子どもルームと学校のそれぞれの管理区分を物理的に別にする事なく、互いの協力に基づいて管理するために、細部について取り決めたものである。

具体的には、**教育財産の取扱い、校舎の区分及び管理、学校既存設備の利用等、事故等に係る責任の範囲、教室不足により学校教育に支障が生じる場合の対応**などである。

これにより、千葉市の学校内に設置されている児童クラブは21から33に増加した。

(平成26年4月現在)



IV-3 (2) 学校や放課後子供教室と放課後児童クラブの連携強化

③ 全ての子どもたちを対象とした多様な学習・体験プログラムの充実 *30

すまいるスクール第二延山^{えんざん} 放課後子供教室

～遊びも学びも友だちといっしょ！放課後のみんなの居場所～

(東京都品川区)

取組の概要

「勉強会」、「教室」、「フリータイム」を中心に、多様な内容の事業を実施

勉強会

学校の授業と連携して、主に国語と算数の復習を行い、教員免許を持った指導員が学習を指導

教室

囲碁やパソコンや野球など、体験的、趣味的な活動やスポーツなどを保護者や地域ボランティアの協力を得て実施

フリータイム

宿題や読書で静かに過ごしたり、活動的に伝承遊びやスポーツをしたりするなど、自由に過ごす時間



【勉強会の様子】

特徴

☆すまいるスクールの専用スペースのほか、特別教室、体育館、校庭など校内各施設について、空いているときは優先的に使用することが可能。

☆必ず受付をしてから活動に参加し、下校するときにも必ず受付を行うこととしており、児童の所在把握を確実化。

☆学校と一体化した運営をしており、子どもたちについて指導員と担任の先生との情報交換も行い、密に連携。



【囲碁教室の様子】

主な取組の成果

○保護者からは、学校内で活動しているので安心している、さまざまな経験が出来るので良いと好評。児童からは友達と遊べる、好きな遊びができる、イベントが楽しいなど、個々の状況に合わせて事業展開を実施。

○品川区では学校選択制を導入しており、すまいるスクールの存在が学校選びのポイントの一つに。

IV-3(2) 学校や放課後子供教室と放課後児童クラブの連携強化

③ 全ての子供たちを対象とした多様な学習・体験プログラムの充実

*31

「子どもたちの放課後を救え！」～放課後の学習プログラム充実に向けた民間・NPOとの連携について～
(特定非営利活動法人放課後NPOアフタースクール)

背景

【アメリカでのアフタースクールでは】

ミッション 子どものドロップアウト防止

特徴

- ① 1980年代から改革、放課後の小学校で展開
- ② 低価格(無料も多い)で貧困地域を優先して展開
- ③ 多彩なプログラムが選択可能(1日約10プログラム)
- ④ 学校の先生と連携して運営
- ⑤ 放課後NPOが地域を巻き込み、自由度高く運営

効果

- ・学校からのドロップアウト減少
- ・学力向上、学校への出席率向上
- ・10代の犯罪率低下、望まない妊娠率の低下

私たちの目指すアフタースクール

放課後の学校に開校 学童保育の預かり機能

市民先生の多彩なプログラム 誰でも使える

異世代交流の場 学校と連携して運営

市民先生(1,500人以上の実績)
市民先生:企業(50社以上の実績)

例)住友生命、パークレイズ証券、サントリーホール、
カルビー、TBSテレビ、JR東日本、松屋銀座 など

放課後NPOアフタースクールの効果:アンケートより

子ども	親
(子どもに与える影響)	(小学校への満足度)
① 学校が楽しみに:31%	アフタースクール利用者:4.13点
② 友人関係が深まる:23%	未利用者:3.75点
③ 夢中の体験:16%	(保護者に与える影響)
④ 家庭での発言が増える:9%	① 仕事が安心して出来る:24%
地域	② 学校が魅力的に:21%
(また市民先生をやりたいですか?)	③ 親子の会話が增える:14%
ぜひやりたい!:100%	④ 仕事を新たに始められた:14%

まとめ

民間との連携【活動してみたの実感】

- ・市民・民間企業との連携のハードルは思っているより高くない
→子どもに関わる機会を求めている方が多い
- ・NPOが放課後の市民先生を収集、学校支援地域本部が全体コーディネーター
→それぞれの強みを発揮して、学校・放課後を支援
- ・学校と民間の間に入るコーディネーターが必要
→「アンテナ、フットワーク、公平、ITリテラシー」が必要条件
- ・学校と放課後が連携することで教育の相乗効果
→学校の開放は前提、校長のリーダーシップが必要
- ・コーディネーターの組織としてNPOは強みを発揮
→行政、株式会社比べて「巻き込み力」はNPOの本分

IV-3(3) 中高生を対象とした放課後等の支援の充実

*33

子供たちの学習意欲に応えるため地域住民と学校が協力した中学校夜間補充教室(がんばらナイト)を運営
(葛飾区立葛美中学校)

概要

葛美中学校では、平成22年度から、地域の方々の協力による学校支援地域本部において、無料の夜間補充教室(がんばらナイト)を実施。(年間65日)

学習の基本は学年別に行う自主学習であり、分からないところを指導員に質問する形式で実施。原則として、学校のワークブックを使用しているが、学校の教員と事前に相談するなど、地域コーディネーターを中心に学校と十分協議しながら活動。

登録生徒数等

生徒 在籍数	登録 生徒数	平均参加 生徒数
319名	66名	約30名



総理視察
H26.9.18

<放課後学習支援>

- ・対象は中1～3の希望者
- ・年間約65回 学期中の週2回 19:00～20:35
(2時間程度)
- ・校舎の余裕教室を利用、無料
- ・学習の基本は自習、指導員による個別指導
*指導員:教員志望の講師や大学生など

<参考 葛飾区における学校支援地域本部(学校地域応援団)の取組>

区内全小中学校73校のうち36校(小学校24校、中学校12校)において、学校地域応援団を組織。うち3中学校で放課後等に学習活動を実施。中でも、葛美中学校では早くから取り組まれ、実施日数も多い。

※学校支援地域本部:地域人材の参画により、学校の教育活動(授業、部活動等)を支援する取組(H25 公立中学校 約2,700校(全体の28%)で実施、補助率1/3)

IV-3 (3) 中高生を対象とした放課後等の支援の充実 *34

子供たちが主体となる土曜学習

「地域の人は学校へ 生徒は地域へ」をキャッチフレーズに地域コーディネーターを中心に活動
(滋賀県湖南市)

ポイント

中学生が主体的に活動し、子供たちと地域が連携した土曜日の教育活動

事例1 「サマースクール」

- 日枝中学校の生徒が、校区内の小学生に夏休みの宿題を支援する取組。
地元小学生の保護者からの相談から実現。
- 地域ボランティア、地元高校生も活動に参加してサポートしている。
- 「ウインタースクール」の実施についても予定している。



事例2 「美文字教室」

- 日枝中学校の生徒が、校区内の小学生に書き初めを指導する取組。
- 地域の文字の達人や保護者も活動に参加している。
- 地元高校の書道部と日枝中学校のブラスバンド部で書道パフォーマンスを披露。



取組の効果

- 中学生は、自分にも出来ることが沢山あり、十分に人の役に立てることを実感する機会となり、**自己肯定感を高めることができる取組**になっている。
- 小学生は、**自分も将来指導者になろう**と思ひ、**努力するきっかけ**となっている。

IV-3 (3) 中高生を対象とした放課後等の支援の充実 *35

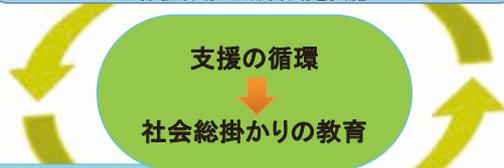
放課後子供教室に参加した子供たちが支援者となる

「支援の循環」により、支援の輪が拡がり、社会総掛かりの教育の実現 (愛知県名古屋市)

名古屋市の取組

中高生、大学生(学生ボランティア)、社会人等地域の住民の協力によって子供たちの支援に関わるなど、縦のつながりや支援の循環が生まれ、放課後対策の充実は、社会総掛かりでの教育の担い手育成にもつながっている。

＜地域の協力体制＞(子育て経験者の知恵の活用)
地域の住民(女性会や民政児童委員等)の協力による
体験活動や交流活動を実施



小学校時代、放課後子供教室で過ごした大学生、社会人、児童館、青少年交流プラザで活動する中学生や高校生も支援に関わる

＜学生ボランティアの活用＞(新たな担い手)
近隣の大学から多数のボランティアが参加しやすい仕組みづくり
(教員採用選考における一部教科の免除)
・学生ボランティアの研修の実施
・教員に採用にされた場合にも、経験を生かすことができるなど効果が大きい

現在、1,000人以上の参加

トワイライトルームの概要

★事業の趣旨

放課後等に小学校施設を活用し、学年の異なる友達との活動や、地域のひととの交流を通して、子供たちの自主性、社会性、創造性などを育むとともに、留守家庭児童等に配慮した就労支援等としての役割を担う事業

★活動内容

学習タイム(学習の見守り活動)
体験活動(和太鼓やお茶)
地域行事への参加 など



【学習タイムの様子】

★対象児童

【基本時間帯】実施校に在籍または当該学校区に在住する小学校1～6年生

【選択事業】基本時間帯の登録者で保護者が就労等で家庭にいないことなどにより子育てへの援助を希望する家庭の児童

★事例 特別講座 おもしろ実験教室

近隣の高校の物理部の生徒が毎年、トワイライトルームを訪れ、子供たちと一緒に実験を行い、子供たちの興味関心を高め、学ぶ意欲の支援に関わっている。



IV-3(4) 特別なニーズのある子供たちへの放課後等の支援の充実 *36

コーディネーター研修 「特別支援が必要な子供たち」 (奈良県奈良市)

複数の人形を駆使した腹話術を通して、身近な子供たちの様相(特に自閉症スペクトラムについて)をコント形式で紹介し、共に考える研修。今回は講師があらかじめ六つのテーマを用意。



大きな声でがみがみ言わないで。
難しい言葉で話さないで。
他の子供と比べないで！
好きだよと口に出して伝えて。

講師：DON腹話術研究所 川松智子氏
場所：奈良市役所 当日参加者：114名
対象：コーディネーター、学校関係者
コーディネーターの以前からの要望により実施

- 【テーマ1】 思ったことをすぐ口に出す子供**
- 【テーマ2】 指示を聞かない子供**
(例)後片付けをしない時
- 【テーマ3】 生きづらい子供**
「君が好きだよ」と声を出して言う。
- 【テーマ4】 事前にスケジュールを教える**
- 【テーマ5】 「できて当たり前」と言わないで**
(よく喧嘩をするモンキーちゃん、卵を産まないチキンちゃん、飼い主に散歩コースを変えられるワンちゃん)
- 【テーマ6】 子供に届く声質**
(講師による腹話術、発声法)

IV-3(4) 特別なニーズのある子供たちへの放課後等の支援の充実 *36

都立あきるの学園(特別支援学校)における放課後子供教室 (東京都)

概要

- ☆趣 旨：学校週5日制の完全実施を機に、特別支援学校に通う子供たちの余暇活動を充実させることを目的に実施。
- ☆実 施 日：年間22日程度【平成26年度計画】(土曜日を中心に長期休業中も実施)
- ☆場 所：あきる野学園体育館など
- ☆内容(例)：太鼓教室、外国語で遊ぼう、スポーツゲーム 等
- ☆平均参加児童生徒数：80名程度

賛同企業 横河電機株式会社HPより
【風船/バレー教室実施の様子】

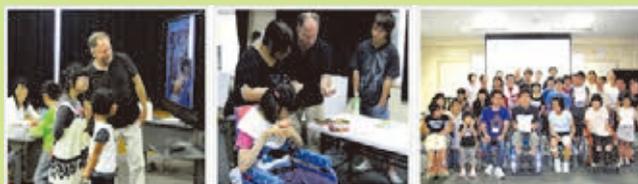
活動が始まった経緯

- ☆現在はPTA主催で始まった「あきるのクラブ」と、太鼓クラブが連携し「チームあきる野」として放課後子供教室を委託運営している
- ☆活動に賛同してくれる企業の協力を得て実施(学校運営協議会の委員をしている企業のCSR担当から学校にボランティアの協力をさせてくれないかと打診があり)



活動のポイント

- 参加を希望する人は、障害の種類や年齢、障害の有無を問わない
- ただし、事故を起こさないために、事前の準備を十分に行う
〈例〉・活動人数が多くなりすぎないように、班分けを行う
・全体の動きがスムーズになるような動線を確認する
- 近隣の大学の学生や企業の方など、さまざまな地域の方の協力を得ることで、屋外での活動や多様なプログラムの実施を可能としている



賛同企業 横河電機株式会社HPより
【外国語で遊ぼう！】

IV-3 (4) 特別なニーズのある子供たちへの放課後等の支援の充実 *36

柏原子ども教室 ☆い・ち・み☆

(大阪府柏原市)

概要

☆趣旨: 学校週5日制が始まった際に、障害のある子供たちが家にひきこもることなく、他の生徒と同じように、外に遊びに行く活動をさせたいという、放課後の居場所づくりとして開始。
(平成8年度に保護者を中心とする取組として開始し、平成16年度にボランティア団体「みんな」が主体となって活動。平成19年度にNPO法人格を取得。)

☆対象 : 柏原市に在住する特別支援学校、地域各小中学校の支援学級の児童生徒

☆実施日 : 年間50日程度 (月の活動は平日:1回、土曜日:3日程度) 平日:放課後 土曜日:午前10時~12時

☆場所 : 地域の小学校の体育館や地域交流ホール

☆内容(例): スポーツ教室(卓球、ボール運動等)、マインドエアロビクス(※)、料理教室、プール教室、音楽教室、散髪教室、創作教室(工作、絵画等)

(※) 自分のペースで、音楽に合わせて楽しみながら体を動かすことができるエアロビクス。

活動のポイント

☆毎月、参加希望を活動ごとに募っており、市内在住の障害をお持ちの児童生徒を対象に、月に1回教育委員会の協力のもと案内(チラシ)を配布及び郵送

☆関西福祉科学大学の学生がボランティアとして参加(参加児童生徒とボランティアが1対1になることで、参加児童生徒の安心につながり、様々な活動をととして、経験値を増やすことができる)

☆障害児・者への支援経験及び理解があるスタッフが手厚く対応

取組を実施して

☆児童生徒も、慣れ親しんだ学校施設を活用できることで安心して参加ができています

☆定期的に開催することで外に出ることが定着し、障害のある児童や保護者の暮らしやすさにつながっている



【マインドエアロビクスの様子】

IV-4 (1) 学校と地域をつなぐコーディネーターの役割や位置付け

① コーディネーターの役割と効果的な配置・位置付け *37

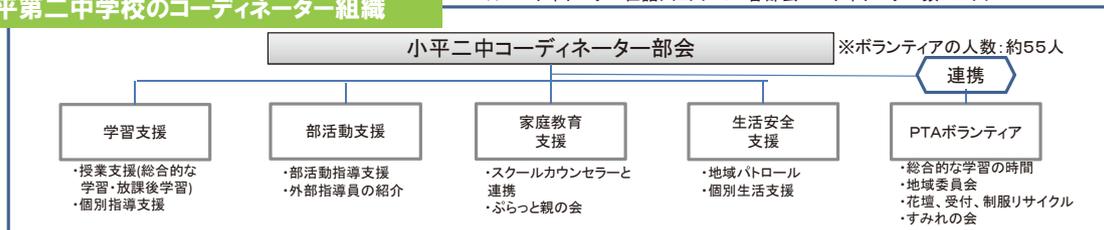
～コーディネーター部会の設置の事例～

(小平市立小平第四小学校・小平第二中学校)

○小平市教育委員会では、平成14年度から「小平地域教育サポート・ネット事業」として、学校支援ボランティアの養成・積極的活用とコーディネーターの養成に取り組んでいる。
○市内27校(全校)に延べ48人のコーディネーター世話人を配置している。各部ごとのコーディネーターの代表が部会を組織。

小平第二中学校のコーディネーター組織

★コーディネーター世話人2人 + 各部会コーディネーター数:11人



小平第四小学校におけるコーディネーターの取組

